

プレゼンテーション試験

【責任者/担当者】

篠原 尚 臨床教育統括センター長、蓮池 由起子 医学教育センター長、
竹田 健太 卒後研修センター長、作間 未織 准教授、庄司 拓仁 教育准教授、
柏 薫里 講師

【担当者】

臨床教育統括センター教員、医学教育センター教員、各診療科教員

【目的】

症例のプレゼンテーションは臨床の現場では学会発表、カンファレンスや病棟回診、担当や勤務の引き継ぎ時の申し送り、コンサルテーションなど、頻繁に行われる必須技能である。医師—医師、看護師—医師間をはじめ多職種連携の技能としても重要である。特に大学病院などでは医療チーム間の情報共有だけでなく、研修医や Student Doctor である学生が一旦情報をまとめることによって理解を深める効果があり、指導医も患者の診療方針を確認すると共に、研修医や学生の理解度を確認できる。症例プレゼンテーションの内容は、症状や所見を単に記述した内容ではなく、医学的に効率化され、抽象化された情報も含まれる。プレゼンテーションされた内容を指導医や同僚と討論しながら振り返ることによって診断や治療の新たな気づき、他の症例との共通点の発見が得られる場合もあり、新発見につながる可能性もある。

既に各診療科において診療参加型臨床実習のまとめとして症例プレゼンテーションを経験していると思われるが、この試験は臨床実習修了時の総括的評価として実施する。

【日時】

集合形式で実施しないため、設定しない。

別途、提出物(スライド資料・英文抄録)の提出期日を臨床教育統括センター長が設定する。

※再提出対象となった場合は、再試験受験願の提出が必要となる(受験料 3,000 円)。

【概要】

臨床実習で経験した症例について、PowerPointでスライド資料を作成する。

2名の評価者でスライド資料の内容を採点し、不合格者に対しては、再提出を指示する。

また、英文抄録を提出し、評価を受ける。

【症例の選択】

4 週間実習を行った診療科(但し内科・一般外科に限る)の中で受け持った患者の症例を1つ選択し、スライド資料の作成を行う。

【要領】

1. PowerPoint を用いてスライド資料を作成する。ノート欄にはスライドの説明内容を入力すること。
 2. 画像データ、病理像などの患者資料をできるだけ呈示して説明を加える。
 3. 臨床実習中に症例を選択し、必要な資料(現病歴、検査データ、治療内容など)を予め集め、用意しておく。
 4. プレゼンテーションに用いる画像データは、スケッチしておく。
 5. 指導医は、試験前にプレゼンテーションのサポートを行うことはない。
- ※英文抄録は別途 Excel にて作成し、Moodle へ提出すること。

【成績の評価方法・基準】

1. スライド資料の採点は 2 人の評価者によって行い、以下の項目について、5 段階評価を行う。
 - ① 症例選択
 - ② スライド資料の見やすさ・ノートの記載内容
 - ③ 疾患病態や治療法に対する理解
 - ④ 考察
 - ⑤ EBM の到達度
2. 本試験・再試験ともに、評価者の上記項目の合計評価が 25 点以上(50 点満点)かつ英文抄録評価が 3 点以上(5 点満点)で合格。どちらか一方でも不合格となった場合は再試験受験手続きの上、不合格となった提出物を再提出。
3. 再試験で不合格となった場合、卒業総合試験から「10 点」減点する。
4. 提出物の未提出ならびに著しい不勉強、準備不足、無気力は履修放棄とみなす。履修放棄、剽窃・捏造などの不正行為は留年とする。

【学生への助言】

卒前にプレゼンテーションを学ぶことは大変重要で有意義である。プレゼンテーションの経験については卒業生からの評価も高い。真剣に取り組むこと。

【連絡先】

教育研究棟 2 階 大学事務部 西宮教学課